



今だからこそ考えよう防災対策

自然災害への対応では、自ら備え、自らの身を守る「自助」が基本ですが、地域の助け合いにより地域を守る「共助」、行政などの公的機関による「公助」が、それぞれ協働し、一体となって取り組む事が大切です。
また、本市は、地震、津波、延焼火災、洪水、土砂災害など様々な災害リスクを抱えており、「共助」においても各地区の特性を捉えた活動が重要となります。
「共助」の活動は様々ありますが、大きく分けると、平常時の活動と災害時の活動があります。
平常時に期待される活動としては、地区内での連携体制の構築や防災リーダー等の人材育成、防災資器材の整備、防災訓練等を通じた防災知識の普及や応急活動技術の習得、顔の見える関係づくりなど要配慮者支援の準備などがあります。
一方、災害時には、安否確認や避難支援といった要配慮者への支援、被害状況等の情報収集と地区防災

拠点（小中学校）への伝達、救援物資の配布協力、避難所の運営協力などが期待されています。
特に、最近の大規模災害の教訓を踏まえると、要支援者への支援は、ますます重要な活動となっています。市内各地区でも避難行動要支援者名簿を活用いただきながら取り組んでいただいておりますが、全国的にも課題が多く、本市でも地域団体の皆様が活動しやすいよう、連携して取り組んでいきたいと考えています。
本市では、様々な地域団体が防災活動に積極的に取り組んでいただいております。特に昨年度、茅ヶ崎市まちぢから協議会に防災部会が設置され、各地区の防災活動もますます充実していくものと考えています。市は「公助」として今後も「自助」「共助」の防災活動を支援し、総ぐるみで安全安心なまちづくりを進めていきます。

茅ヶ崎市防災対策課

茅ヶ崎南地区まちぢから協議会

南地区避難所マニュアル作成について

現在、南地区まちぢから協議会においては、防災部会を中心に避難所マニュアルの見直しをしており、地域に即した物にするよう検討しております。



防災訓練避難所説明(昨年)

これを機会に、防災訓練も海岸地区の3自治会も見学参加を希望しており、今後の訓練に取り入れてゆく方向で検討しております。
今後とも、地域の減災のため情報交換をして行きたいと考えております。

湘南地区まちぢから協議会

洪水対策に向けた活動

令和2年7月に発生した豪雨災害は、九州地方をはじめ多方面で多大な被害が発生しました。このような状況の中、湘南地区、小田原地区、相模川、小出川等の氾濫による洪水災害のリスクがある中で、早急な洪水対策が必要である。



各自治会、各団体代表35名による行政との情報交換会

①避難所の開設タイミング、②避難場所、避難方法、③警戒レベルの行政からの連絡方法等について情報交換を行いました。
今後、湘南地区では、防災啓発活動の一環として、洪水対策マニュアル冊子を発行し全戸配布する予定です。

南湖地区まちぢから協議会

新たな災害にそなえて

今年度は合同防災訓練が中止となり、下町自治会は単独で災害時安全確認訓練（無事）の標準を玄関先に出すを実施しました。



「無事」標識等を確認して防災本部に報告

今後の課題として地震中心になっていた避難マニュアルの見直し、自治会防災会と防災リーダーの連携、災害時の連絡網の再構築等々近年の大型台風等に向けた新たな対応を防災会議の中で協議してまいります。

海岸地区まちぢから協議会

住んで良かったまちづくり

火災クラスター地域である当地区では、防災安全部会を組織し、防災リーダーを中心に地区防災訓練を開催するなど、地域防災力の強化を図っています。特に防災リーダー数は295名と地区別では最大級の陣容を抱え、強力な支えとなっています。また、感震アラート（アラート）の設置を進め、茅ヶ崎市の補助金を利用して令和2年度までに5,400個自治会加入者の80.4%に設置し、今後は自治会未加入世帯への設置が課題となっています。さらに、感染症の蔓延下、避難所運営を再検討し、行政の協力を



中学生と一緒に救出訓練(昨年)

得ながら地区の特性を考慮した運営マニュアルを令和2年度に発行することを計画しています。

茅ヶ崎地区まちぢから協議会

みんなで創るみんなのまち

茅ヶ崎地区まちぢから協議会の活動ポリシーは「一人でも多くの意見を取り入れて活動方向を決定することです。当地区の地域特性は過半数の単位自治会がマンション自治会であることや多くの公的施設、大型店舗が存在すること地域外の人々も多く集まることです。この地域特性に対し地域防災を担うために防災部会を設置し、防災訓練や防災リーダーフォローアップ訓練を実施しています。防災訓練には毎年400名前後の地域住民の皆さんが参加し実施して



防災リーダー情報交換会

います。また本年2月には地区内防災リーダー56名が参加した「情報交換会」を開催し、昨年の台風15号・19号における風水害に対する市の対応や避難所運営について市及び校長先生にお話を伺った後、マンション・戸建て自治会ごとに議論を行いました。今後は、これから出た課題等を解決する活動を進めてまいります。

鶴嶺東地区まちぢから協議会

自助・共助の前に近助

台風・豪雨時の水害、地震時の災害、新型コロナウイルス等感染症予防などそれぞれに避難所対応が求められています。
昨年の台風15号及び19号の避難所対応の課題も含め、鶴嶺東自主防災連合会を中心に今年度は5年ぶりに合同防災訓練を11月15日に予定していましたが、コロナ禍の為中止となりました。
しかしながら自治会によっては、3〜4か所に避難所が分散するため安否確認表（要配慮者）を各自自治会ごとに見直し、防災リーダー・配備職員等避難所ごとに連絡網を



鶴嶺東地区普通救命講習会の様子(昨年)

今期中に作成し、より具体的かつ実践に即したものになるようにしていく予定です。

鶴嶺西地区まちぢから協議会

当地区の『災害対応ガイドライン』

自治会の立地条件等が違えば災害対応行動も違ってくるというのスタンスで、地区共通のガイドラインを紹介しています。その局面を詳しく紹介します。
①災害時対応行動について
地区内のマンション系自治会は、建物の耐震性、ある程度の高さもあることから、単位自治会内での垂直避難・安否確認・救護活動を完了させる。
これに対して地域自治会は、避難所の運営協力を含めて避難・救護活動を検討する。避難支援が必要な対象者の絞り込みと避難計画を



避難行動要支援者の論議(昨年度の市民集会)

作る。避難所の開設に合わせ、運営支援も考慮することとし、配備職員・学校関係者との打合せを考慮する。
②災害情報等の授受
単位自治会及び学校等避難所(地区防災・支援物資拠点)間でトランシーブによる情報交換を行います。毎月2回、西コミセンの屋上テナを親機として、交信テストを実施中です。

松林地区まちぢから協議会

災害時の情報の収集と伝達

松林地区の自治会には約60台のデジタル無線機（総合通信局の高感度携帯無線機）があります。災害時の通信手段としてアマチュア無線技師の協力を得て毎月第1日曜日を活用して訓練を実施しています。



デジタル無線機 カンタン、いつでも快適 資格なしですぐ使える 5Wハイパワーデジタル

災害発生時には、被災状況、避難所状況、安否確認、救出救護、消火活動、負傷者の搬送や受入れ先などについて速やかな情報伝達が必要になります。電話や携帯やスマホ等の通信手段は発信障害による制限や不通が起ちがちです。そこで活躍するのがデジタル無線機です。

デジタル無線機で各自治会内での情報交換、各自治会と拠点（小中学校）が拠点になります。周での情報交換、その後地区拠点と市役所本部間の情報交換に進みます。
災害後余裕ができれば自治会同士の間でも取れ、お互いの情報共有や物品の融通などを話し合うこともできます。

小和田地区まちぢから協議会

「街頭消火器をキレイにから「周り」もキレイにへ!!

辻当駅前の赤松町エリアを対象に市と協働で防災のワーフショッが開催されました。幅広い年代の参加者の話し合いの中で、あるお子さんから「街頭消火器の色が違って目立たない」との意見が出され、早速参加メンバーが対応しました。赤ペンキを購入し、ワイヤーブラシで錆を落とし下地塗り・上塗りをして該当自治会内の58か所を塗り終えました。塗っているところの人が出てきて、「ここにも有るよ」と教えてくれ、更に消火器の周りの掃除をしてくれました。



文字部はテープでマスクング

本宿自治会内58箇所の色褪せた街頭消火器の再塗装を自治会役員が実施いたしました。

浜須賀地区まちぢから協議会

男女共同参画の視点からの避難所運営をめざして

川崎市へは男女共同参画、富士市には防災全般について視察を行いました。その結果、昨年の防災訓練では浜須賀中学校の生徒による簡易トイレ製作方法の発表が行われました。また、避難所運営に女性が女性の意見を重視することが多々あり、その準備としても、今後、各世代の女性防災リーダーを避難所ごとに、配置することを考えています。女性は、家事、子育て、介護等のケアの役割を担うことが多いことから、防災・災害復興の各場面でも男性と共に女性も主体的な参画を推進することが必要だと考えています。



菱沼海岸の砂浜の様子(昨年)

要だと考えています。写真は昨年の台風で砂浜が消え遊歩道が寸断された様子です。毎年繰り返される自然災害も、し地震による津波が起れば想像を絶します。住み良い町をまちのちからで守ります。

松浪地区まちぢから協議会

要支援者に優しいまちづくり

松浪地区まちぢから協議会では前年度の防災訓練で要支援者避難行動として、車イスの操作実習を行い、各自治会で車イスを押して道路障害物を確認して避難所まで体験してもらいました。避難所ではスロープやコースを設定して訓練参加者全員が操作を体験しました。操作の難しさがわかり又、楽しい訓練との感想も多く評判の良い訓練でした。



平成2年8月防災対策部会の会議

強風被害を考慮する必要も出て来ます。松浪地区はクラスター火災の危険度は高い為、これからの災害対策を松浪地区内の各種の会議にて発表をして住民意識の向上に努めていきます。

湘北地区自治会連合会

自治会連合会事業の紹介

湘北地区は団地・マンションの集合住宅（3自治会）と戸建て住宅地域（4自治会）の7自治会で構成し、会員世帯数は7,247令和2年3月末であります。
当地区は、茅ヶ崎市で3番目の大きなクラスター（延焼連帯共同体）を形成する火災危険地帯であることから、今年度は訓練場所に集合して実施するやり方から、実際の災害を想定した訓練へと変更し、災害発生時の安否確認とその結果を災害拠点に伝達する一連の流れとした訓練方式への変更を検討しております。



連合会 役員会議(月1回)

しかしながらこのような訓練は、自主防災会を始めとして地域関連団体の協力が必要であることから地域の共通問題への取り組みについて、現在の自治会連合会が主体となった活動から、地域が一体となった活動（地域コミュニティ）へのあり方について連合会役員会にて検討を行っており、今後、関連団体を含めた意見交換の場を立ち上げる予定であります。

小出地区まちぢから協議会

「大地震が発生した時」貴方はこの「避難施設」に避難しますか

発生直後、自治会から指定された一時避難場所へ避難して被害状況を報告します。この場合は、「自分たちの自治会館もしくは近くの公園など」になります。



トリアージ訓練の様子(昨年)

その後、地区内の「避難施設（小学校・中学校）が開設されたら、最寄りの避難施設に避難する。被害状況により異なりますが、在宅避難が基本です。
小出地区の場合4ヶ所の「避難施設（小学校）があります。
①大庭小学校 ②滝の沢小学校 ③小出小学校 ④北陽中学校

注記 貴方は、大地震が発生した時、どの避難施設に避難するのか、自治会長と相談して、取り決めておいてください。